

第1回総会における意見一覧

参考資料2

各委員の発言内容		
全般	<p>①立派なビジョンができたが、それを実現するために具体的にどのように働きかけていくかを考えていく必要がある。具体的な事例をモデル化したり、横展開したりして広めていく必要がある。</p> <p>②各分野の先導的取組が横につながるとよいと思う。例えば、木材を利用したハウスなどの園芸施設整備等。</p> <p>③施策がうまくいっていることやいっていないことについて、データを活用した検証が重要ではないかと思う。農家に対するアンケートを行い、原因分析や検証をしていくことも大切ではないか。</p> <p>④特に若い世代への働きかけが大切である。若い世代は、食料安全保障などの地球規模の様々な課題にかかる関心が高い。どのように解決するかについて、若者、子供向けPR、計画立案から関われる取組をしてほしい。</p> <p>合わせて、多様性の観点から、女性、外国人、移住者の方がこれまで取り組まれてこられた方と対等な立場でアイデアや力を発揮できるような仕組みづくりが必要であると思う。</p> <p>⑤農林水産業は、高齢化や従事者の減少など厳しい状況の中で取り組んでいる。いかに省力化を進め、仕事内容に見合った収益を得られるようにするかが重要であり、誰もが豊かさを実感でき、豊作を喜ぶことができるようにしていきたい。</p> <p>⑥これまでは、過去の延長で考えれば良かったが、今後の10~20年は、コロナをはじめ、地球温暖化への対応など課題も大きく変わってきている。具体の施策立案にあたっては、これらを強く意識する必要がある。</p> <p>また、農林水産業は、他の業種と異なり、それぞれに関係性がある。まずは、森、そこから農業、水産業へとつながっていく。さらには、それぞれが県民の生活につながっていく。この関係性を重視しながら考えていきたい。</p> <p>⑦大規模化、スマート化、SDGs、カーボンニュートラル、農福連携等などそれぞれ良いことではあるが、相反する部分もあるので、どのように形作っていくかの現場レベルでの議論をしていくべきではないか。</p> <p>⑧地域の農業を持続可能なものとするためには、有機農業、GAP、ブランド化などの差別化も重要となってくるが、認証などの事務手続きが必要。農村部では情報が不足。また、小規模な経営体にとっては、登録料も負担となっている。</p>	
	<p>推進項目1 スマート化による新しい農林水産業の実現</p>	
	<p>推進項目2 多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開</p> <p>①法人経営において、農業経営を任せられることができるような人が不足している。法人協会としては、若手を中心としたグループ活動を進めていき、2代目、3代目の育成に力を入れて行きたいと考えている。</p> <p>②働く場の変革も必要だと思う。</p> <p>③兵庫県は、収入保険も農業共済も加入率が低い。災害が多発する中で、被害があった時に再生が困難。そうなれば、ますます農業者が減っていくことになるので、加入促進を進めてほしい。</p> <p>④基幹的農業者を支える仕組み、人材育成が重要と考えている。草刈りをどのように対応するか、ため池の管理方法のあり方や管理主体の育成について研究している。家族経営の農業についても重要だと考えており、長く続ける仕組み、サポート体制の構築が重要。</p> <p>⑤神戸市で自らCSAに取り組み、また他の農家がCSAに取り組みめるように支援している農業者団体がある。そこでは、神戸市の支援を受けてCSAを支援するためのシステムを構築されているが、実際の運用にあたってはお金が必要とのこと。このような部分を兵庫県でサポートできれば普及が進むと思う。</p>	
	<p>推進項目3 需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化</p>	
	<p>推進項目4 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進</p> <p>①林業においては、労働力不足と生産性の低さが課題。解決するためには、革新的な技術開発により、省力化、低コスト化を図る必要がある。昨今、AIやデジタル化が叫ばれているが、それには、ベースとなる地籍調査が必要。20~30年以内に進めてほしい。</p> <p>②これまでに現場で林業の経営計画の策定等を行ってきた経験上、林業経営の難しさを実感している。次世代の森づくりに向けて、何を植えるのかが課題。</p> <p>③林業業界も人手不足が深刻。最近では機械化が進んで労働環境の改善も進んできているが、まだまだ、きつい、きたない、きけんなど悪いイメージが残っていて、敬遠されている。事業体としても機械化のさらなる推進や賃金を極力高い水準に設定する等の対応をしているが、経営が苦しく難しい。農業等に比べて補助金が手厚いが、まだまだ足りないのが実状。目先の収益だけにとらわれていては、持続可能な林業ができない。良い木だけを切って、悪い木を残したことでそのつけが回ってきているところもある。建築用材が伸びない中で、木質バイオマスの需要が増えてきていて、林業のあり方自体も変わってきている。それらを踏まえて、今後の林業の進め方を考えていく必要がある。</p>	
	<p>推進項目5 豊かな海と持続的な水産業の実現</p> <p>①近年漁業生産量は、激減している。原因は海の栄養塩不足と考えている。また、藻場も減り、磯焼けがどんどん進んでいる。磯焼けの発生原因を調べ、その対策を講じてほしい。漁業者も努力しているが、解決策が見出せていない。</p> <p>②水産業は、自然栄養に依存している特徴があり、ノリやカキ等の養殖でも同様。海の栄養分では、特に窒素不足が深刻。有明海では、化学肥料の散布を実施しているが、瀬戸内海では、流れが速いため拡散して費用対効果が合わない。このため、農畜産由来の有機質肥料の有効利用できないかということで技術開発が進められている。</p> <p>③問題解決に向けて、漁業だけでなく、農業、林業の分野とも協力して議論していかなければならないと思う。一次産業にとっては、個人で問題を解決できる状況ではなくなっている。海外では、20~30年前から生産調整等を行い、漁業を継続してきた。日本もこのような形をとる時期に来ていると思う。</p>	
	<p>推進項目6 農畜水産物のブランド力強化と生産者所得の向上</p> <p>①認証食品について、一般消費者に情報が十分に伝わっていないように思われるため、さらなるPR、周知が必要。</p> <p>②兵庫県には様々な特産品があり、ひょうご食品認証制度など普及に向けた取組も色々されていると認識。もっともっとPRしていく必要があると思う。</p> <p>③農畜水産物生産は、過酷な現場である。生産にかかるコスト等を踏まえて、価格を決められるようにしなければ、供給量が先細るのではないか。</p>	
	基本方向1	

	<p>④海外では環境配慮型商品の価値が認識されてきているが、日本では、まだまだ進んでいない。世界では、有機農産物への原料シフトが進んでおり、酒造メーカーとして危機感を感じている。</p> <p>⑤有機栽培のお米を使ったお酒の紹介があったが、今後は、地域や作り方へのこだわりが重視されてくると思う。こういった動きにも対応が必要。</p> <p>⑥流通業、小売業、飲食業等について、考え方の転換が必要、日本の食品は安すぎる。ゲームやブランドバックなども良いが、自分の体のため、食にお金を使えるような意識改革が必要だと思う。</p> <p>推進項目7 食の安全を支える生産体制の確保</p> <p>①JGAPの認証を受けた農場が増えれば、安全安心が見える農産物として、他府県や海外に広まっていくと思う。</p> <p>②鳥インフルエンザ等家畜伝染病等対策について、実効性のあるものにしていく必要がある。飼養衛生管理基準の順守はもちろんであるが、一方で、農業に関係する人たちをどのようにして増やすかについても考えていかなければならない。このような災害とも言えるような状況を発生させないようにしつつ、都会の人たちを農業に近づけていくかを考えていかなければならない。不幸にも伝染病等が発生してしまった場合には、風評被害が起きないように消費者への正しい情報を提供することや復興への支援が必要。</p>
基本方向2	<p>推進項目8 特色を活かした活力ある地域づくりの推進</p> <p>①都市部の人々が農業生産に関心を持っている人が増えている。農業をする市民を農家が支えるような新しい取組が増えるのではないかと。</p> <p>②農村部への若者の移住プログラムの策定をしている。農村に興味があっても、農業への関心は少ないので、そのような人々に農業に関わってもらえるようにするのが重要である。</p> <p>③農村の土地利用については、地域の人、コミュニティーの状況が問題の根幹にある。このような地域に対し、政策としてどのように手を差し伸べられるか、農業の大規模化やスマート化等の先進的な取組ではなく、地域の中で負の財産となるような間にあるもの、隙間にあるものをどのようにしていくかが非常に重要である。</p> <p>人・農地プランについて、あまり作成が進んでいないという認識。そもそも人・農地プランの作成の仕方がわかっていないと思う。審議会としても現場の取組が進むように、具体的な方向性を出してほしい。</p> <p>④地域資源である竹や木をチップにしたものを利用して、化学肥料の低減に取り組んでいるが、特殊な機械や経費が必要な部分もある。民間企業と協力して技術開発等が進めば、より取り組みやすくなると思う。</p> <p>推進項目9 農山漁村の防災・減災対策の推進</p> <p>推進項目10 豊かな森づくりの推進</p> <p>①CSRについて、ヨーロッパにおいては、利害関係者の他、市民が参画して政策の立案することが一般的となっているため、普及していく際の参考になると考える。</p>
基本方向3	<p>推進項目11 食と「農」に親しむ楽農生活の推進</p> <p>推進項目12 「農」と多様な分野との連携強化</p> <p>①農福連携において、障害者が自立するために必要な収入を得ることができない。障害が軽度な方においては、農業を職業として自立することも可能ではないかと考えている。是非、そのようなモデルケースを作って広めてほしい。</p> <p>②農福連携について、いろいろな形の取組があると思うので、事例を発掘して紹介してほしい。</p> <p>推進項目13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進</p> <p>①市場法が改正され自由化が進んだ。地域の枠がなくなり自由に行き来ができるようになっている。県内の卸売市場において、ものを供給し合い対抗しようとしているが、トラック不足、コスト高など輸送が課題。特に、日本海側との連携が十分にできていない状況。</p> <p>②飲食店として一つの店舗における流通量が限られる中で、良い食材とめぐりあってもそれをどのように仕入れ、経費を抑えるかを調整する必要があり、結果的に消費者の皆さんに魅力的な価格で提供できないこともある。</p> <p>③農業の担い手不足が深刻となっていると感じている。大学生オリジナルお酒研究会を立ち上げ、生産現場からお酒作りまで学んでもらっている。担い手は難しくても生産を支える消費者になってもらえたらと考えている。このように「食」を通じて、「農業」のことを考えてもらえるような環境づくりができるようなればと思う。</p> <p>④格差社会、貧困問題が拡大する中で、農業、食料の果たす役割についての議論が必要だと思う。例えば、子ども食堂なども話題となったが、このようなことにも注目して議論していく必要があると考える。</p>